

伝承者の声の聴ける本三部作のこと

酒井 董美^{ただよし}

民話の本の表紙

世の中の進歩はまさに日進月歩である。つい最近までの本作りで、例えば民謡やわらべ歌などの場合、メロディーを知るには、伝承者のうたっている録音から、採譜して楽譜化すること、理解していたのであるが、その後、少し費用がかかるものの、録音CDを付けることで、伝承者の肉声で聴けることになり、楽譜の読めない読者でも生の声で、メロディ

ーが聴けるようになった。

ところが、今日、ウェブサイトに上がっているものならば、QRコードを作成して付けておきさえすれば、スマホで聞くことで、伝承者の生の声が聴けるのであるから、CDはまったく不用となった。時代も進んだものだと感じている筆者なのである。

そこで筆者にできる島根県に関するものといえば、出雲かんべの里ホームページに登場しているものを、活用することに気がついた。つまり、『島根の民話』『島根のわらべ歌』『島根の民謡』の三分野の資料のことである。

これらは共通して出雲地区、石見地区、隠岐地区について、おのおの30ずつホームページに đăng載している。もちろんそれらの一つずつには解説もつけているので、それを原稿にしなせば、簡単に本にすることができ。中でも民謡の方は福本隆男氏の見事なイラストがすでにホームページに掲載されているので、QRコード作成の作業さえ済めば出版社に渡せるのである。

こうして記していると、これからこれらの作業に取り掛かるように聞こえるのであるが、実際はそうではない。右上の写真『QRコードで聴く島根の民話』(45・193ページ、1900円＋税)は、昨年6月、米子市の今井出版から上梓したもので、二段組みで90話(出雲地区、石見地区、隠岐地区各30話)入っており、一つ一つの話には福本隆男氏のカラーイラストが描かれ、筆者の解説がついているのである。

次に『島根の民謡』の方は、民謡と同じ形で原稿は完成し、先日、出版社に渡している。現在は校正刷りが出るので待っているところである。書店に並ぶの間もないことである。

最後に『島根のわらべ歌』の方である。実は現在このわらべ歌については、日刊紙『島根日日新聞』の毎週火曜日紙面で「QRコードで聴く島根のわらべ歌」として連載を続けており、今週で65回を終えた。このままで行けば来年二月に90回で連載完結となる。出版はこれ以降の予定である。

かくして三部作は完成することになる。伝承者の声の聞こえる本が、出雲かんべの里とのコラボレーションでできることになった。収録を始めた1960年(昭和35年)代には考えられないことだった。時代の進展をしみじみ痛感している筆者なのである。